

## 第2部 浦添市の景観特性と課題(現況編)

### 1. 景観の捉え方

景観とは、都市や地域を構成する自然、建築物・工作物などの物的環境についての空間あるいは見え方、感じ方と捉えられます。

この見え方、感じ方は、「対象」と「観る者」の相互作用であり、単に視覚的な事象に止まらず、観る者のその時の気分や環境としての気候、匂い、音、肌ざわり(例えば歩道や広場の舗装材等)などと密接に関連しています。このように、景観の形成は、人間の知覚全体で把握する空間あるいは場の整備を対象としています。

また、景観は、区切られ独立した空間あるいは場、及び時間を対象としつつも、そこに都市及び地域全体の形態・活動・時間(歴史)の脈絡の中に位置づけられています。すなわち、景観は、都市や地域の規模、そこで繰り広げられる諸活動や市民生活のスタイル、長年にわたって培われた歴史、文化の蓄積を反映しているといえます。こうしたことから、景観の形成は、その都市・地域の固有な表現としての性格をもちます。

このように、景観のもつ性格が多様で総合的であることから、今後、良好な景観の形成に際しては、以下の諸点に留意しながら進めていきます。

#### (1) 多元的な対応

現代社会は多様な価値観をもつ市民で成り立っています。ある人が「好き」と評価しても、別の人は「きらい」と評価する場合が決して少なくありません。景観形成施策においては、こうした評価の違いが必然的なものになります。こうした中であって、景観形成施策を進めていくためには、協働の景観まちづくりの観点から評価の違いを相互に十分議論し、洗練された理解を深め工夫に努める必要があります。

#### (2) 原点と展開理論の明快化

一方、浦添市の景観は「ここから始まる」といった、原点となる景観は存在しています。これだけは大切にしていける必要があるといった景観を明確に評価していくべきです。こうした景観は、本計画においては、「骨格別景観まちづくりの方針」に掲げられている景観要素といえます。

#### (3) 夢の重視

景観形成の理論は、しばしば過去と現状の将来への保全に偏りがちです。もちろん良好な景観資源の保全は当然のこととして重視していかなければなりません。しかしながら、こうした良好な資源も、過去においては極めて周辺と異質で、当時としては初めて見るような新しい要素であったかもしれません。現在進める景観まちづくりは、将来に向けた新しい良好な資源の創造という観点も重視しながら取り組む必要があります。

## 2. 浦添市の景観の変遷

本市のかつての豊かな風景について、以下の記述資料があります。「浦添市はかつて、山青く水清い、平和郷であった。そこでは、毎年闘牛が行われ、綱引き、棒術、獅子舞い等の民俗行事も盛んで豊かな自然環境は私たち先祖の生活を営々とはぐくみ、育ててきた。」(「写真にみる浦添のあゆみ」)



城間の闘牛大会 (昭和 30 年代)

### (1) 琉球王都を生んだ浦添

浦添は沖縄歴史上、最初に王権が確立した地域として知られています。12 世紀には歴史の表舞台に登場し、伊祖城跡から東方の浦添城跡にいたる丘陵地帯がその中心地であり、1187 年から 1406 年までの 220 年間にわたり三王統により、政治、経済、文化の中心地として富み栄えていました。



近世期後半の牧港津口付近 (1854 年)

### (2) 昭和初期～戦前

#### < 農村の風景 >

本市のかつての豊かな田園風景について、以下の記述資料があります。「王都が首里に移った後は、平和で静かな純農村社会へ移行し、戦前までサトウキビづくり、イモや野菜づくりの盛んな地域として知られていた。美しい自然環境の中に人々の暮らしがあり、今日では想像できないような、古きよき時代の浦添がそこにはあった。」(「写真にみる浦添のあゆみ」)



軽便鉄道が牧港付近の田園地帯を走る (昭和 10 年代)

#### < 集落の風景 >

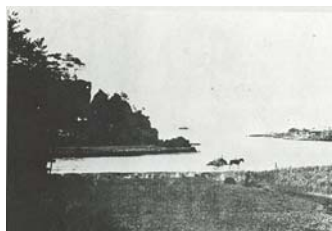
本市の戦前の集落の風景について、以下の記述資料があります。「戸を開け放して、蚊張の中でクバ扇を使いながら寝返りをうつと、満天の星空が見え、馬車挽(ハシムチャー)のナークニーが聞こえて来たりした。緑豊かな屋敷林に囲まれた村のたたずまい、その緑の村(字)を結ぶ道は並松(ナソマチ)と呼ばれる美しい松並木の太木が連なっていた。浦添街道(県道 153 号線)や仲間一当山の街路樹は大正初期までに消滅したが、県道 58 号の並松は戦前まで残っていた。村は村屋(ムラヤー)を中心におき、東西南北の道で区画され、要所には防火用の溜池があり、各屋敷はほとんど石垣で囲われ、その中に屋敷林があり、建物の大部分は茅葺で少数の瓦葺・竹茅葺があり、屋敷内にはミカン・バナナ・パパイヤ等が豊かな実りをみせていた。・・・」(「写真にみる浦添のあゆみ」)



屋敷林・石垣、茅葺、赤瓦葺等が見える小湾集落 (昭和 15 年)

### <入江の風景>

牧港入江は、本市の東部から北に流れる牧港川の河口部にあり、12～13世紀頃は海外貿易港として栄えていました。また、地名の牧港は「為朝伝説」に由来するところでもあり、周辺には「テラブ洞」等の資源もある。入江付近は、4～20m程の琉球石灰岩の丘が立ち並び、その風景は中頭郡でも名所の一つに数えられ、入江付近の写真は絵はがきとして販売される程であり、戦前まで美しい入江の風景でした。（戦後は、米軍道1号建設や埋立、建物の建設等により、昔の面影は薄れている）



国頭街道の要所でもあった牧港橋を往来する荷馬車と入江風景（昭和2年）



写真は絵はがきとして販売（昭和9年）



昭和10年代の牧港入江

### (3)戦後～本土復帰～現在

#### <住宅地の変容>

激戦地のひとつであった浦添では、緑豊かな集落や歴史文化遺産、自然等の資源は破壊されました。人々は収容所のテント生活から、2×4(スーパィ・フォー)の骨組み住宅資材、屋根はテントまたは茅葺きの戦災復興住宅が規格住宅として配布されました。昭和25年には木造瓦葺きで12.5坪が標準となる建物が復興金融基金によって融資されるようになりました。

このように、戦後の住宅は、テント→規格屋→復興金融基金住宅と進み、昭和40年代からコンクリート建築全盛の時代へと移行した。また、かつての石垣からコンクリートブロック塀、木造瓦葺きからRC造が主流となり、集落景観の変容もみられます。

#### <公共事業等>

昭和30年代頃から那覇市からの人口流入の影響でスプロール的に都市化が進行し、それに伴い様々な都市問題が顕在化しました。公共事業が本格的に行われるようになったのは、昭和34年の勢理客城門原の埋立工事からで、次第に、市道を中心に一般道路の舗装や側溝等の改良事業が促進され、国道・県道においても舗装や拡幅拡張等の改修が行われました。昭和40年代には、小湾の公有水面埋立着工、小湾川の護岸工事、緑丘団地や茶山団地等の宅地開発等に取り組み、さらに昭和45年の市昇格を機会に、浦添ニュータウンや当山ハイツ等の宅地開発や、大平インターチェンジの開通など、社会資本の整備が行われました。

特に本土復帰後の昭和47年以降は、本土法の適用を受け、昭和47年の那覇広域都市計画区域決定、伊祖区画整理事業の着手、港川公有水面埋立竣工、伊祖メガネトンネル開通、県営・市営住宅、市民会館など、都市基盤の整備を推進してきました。



戦後、いち早く復興した屋富祖通りには映画館、銀行、商店が建ち並び、基地労働者の下宿人も昭和 31 年頃から増えた。  
(昭和 36 年)



伊祖城跡高台から展望した伊祖一牧港。農地と宅地が混在している。(昭和 41 年頃)



港川地先海岸の埋立 (昭和 47 年頃)



氾濫の多い仲西付近の小湾川護岸工事 (昭和 42 年頃)



昭和 3.0 年代頃の屋富祖通り



昭和 53 の浦添市の航空写真

### 3. 浦添市の景観資源

#### (1) 骨格的資源

骨格的資源について、自然、歴史・文化、都市軸、市街地、眺望の5つの視点からまとめました。

##### ① 自然

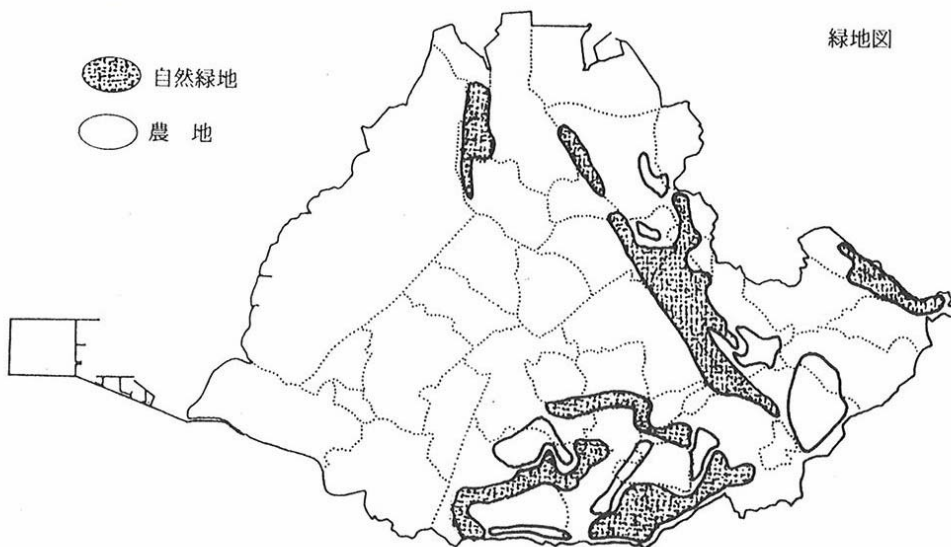
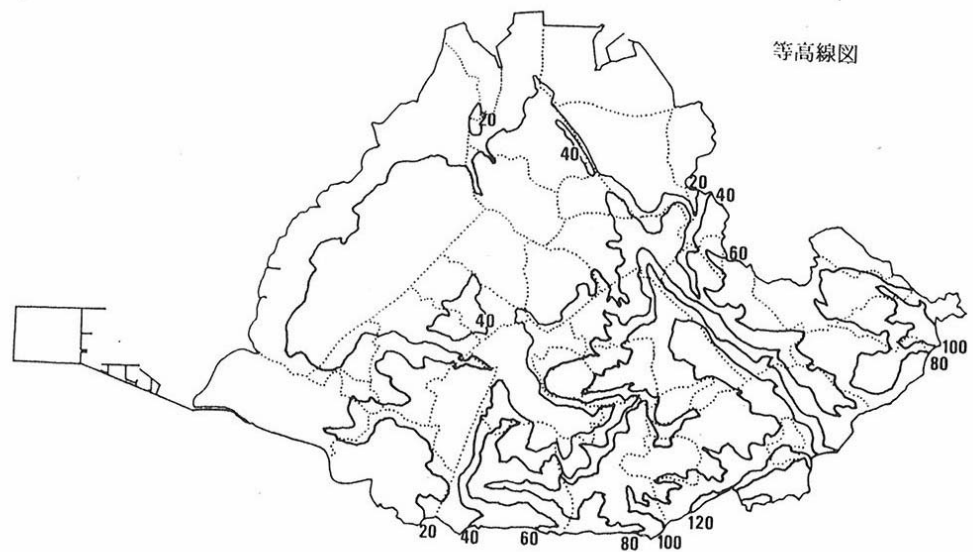
自然系は、地形、自然緑地、生産緑地、海岸線で構成されます。

地形は、本市南東部を最高点として概ね北西方向(海岸方向)へ傾斜しています。また断層や河川浸食により地形は極めて変化に富んでいます。

自然緑地は、市街地を取り囲むように、浦添断層崖、丘陵・斜面地に分布しています。

生産緑地は、市東部の市街化調整区域を中心として国道 330 号より東側の各所に残っています。

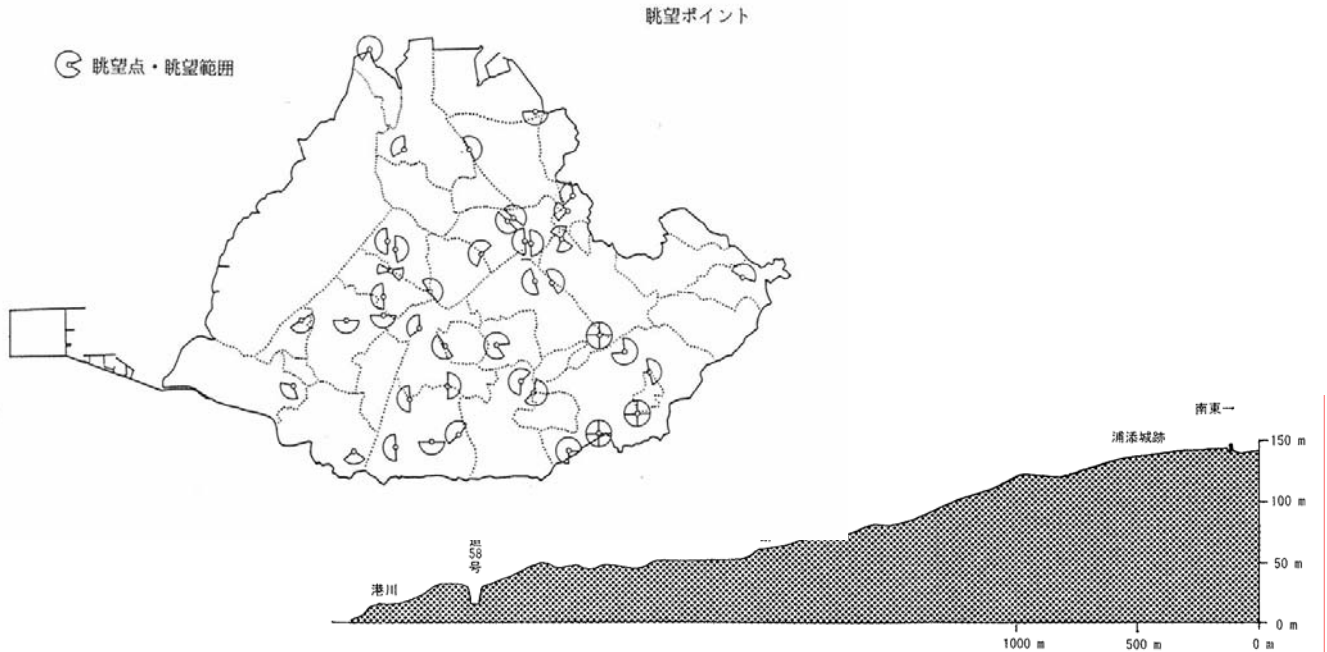
海岸線は、軍用地が大半を占め、その他は埋立地として港湾、漁業関連施設等として利用されています。また、沿岸はイノー、リーフが発達し、沖縄独特の海岸景観を生み出しています。



## ②眺望

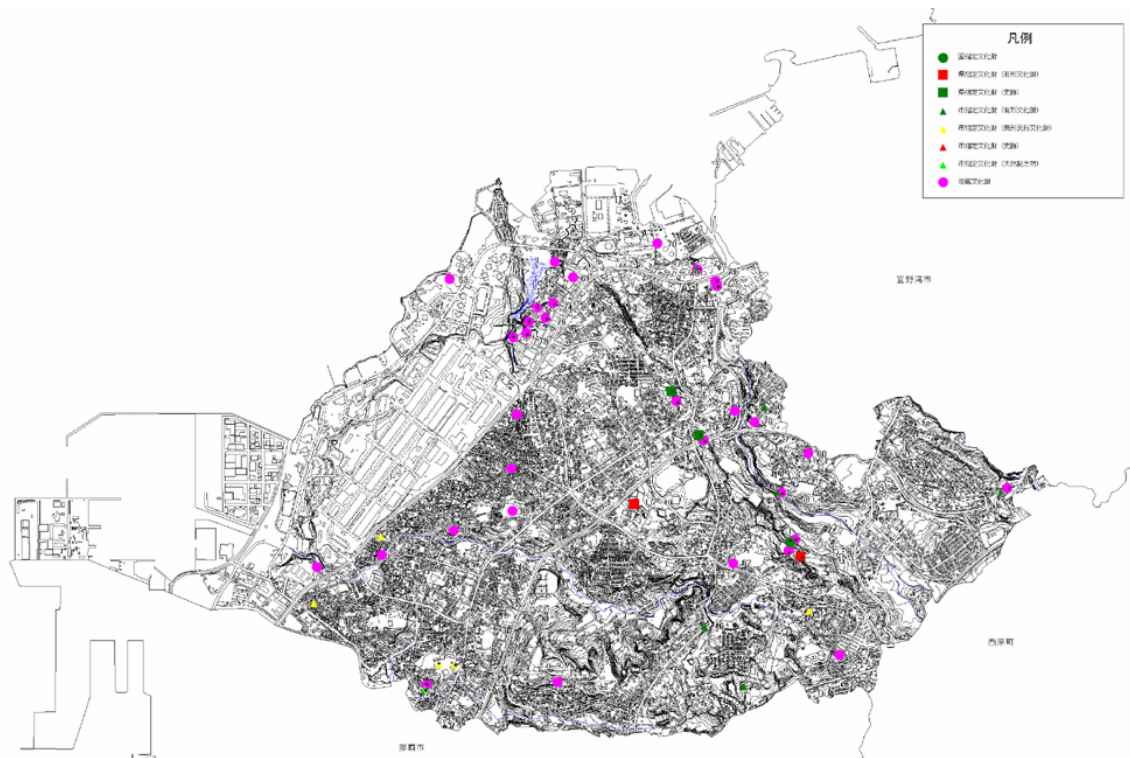
牧港から仲間にかけて延びる浦添断層崖上に多数の眺望点が点在します。その他の眺望点は、国道 330 号を境にして、東側は台地や丘陵地の頂上部並びに斜面地、西側は市街地内の微高地や小丘陵上と性格を異にしています。

全体の地形が、海に向かって傾斜しているため、市内の各所から海への眺望が開けています。



## ③歴史・文化

伊祖城跡から浦添城跡に至る空間に代表される歴史・文化資源は、数多く点在しています。また、浦添大公園、浦添グスクの整備をはじめ、安波茶橋、国立劇場おきな等の歴史・文化的な都市機能の充実も図られています。

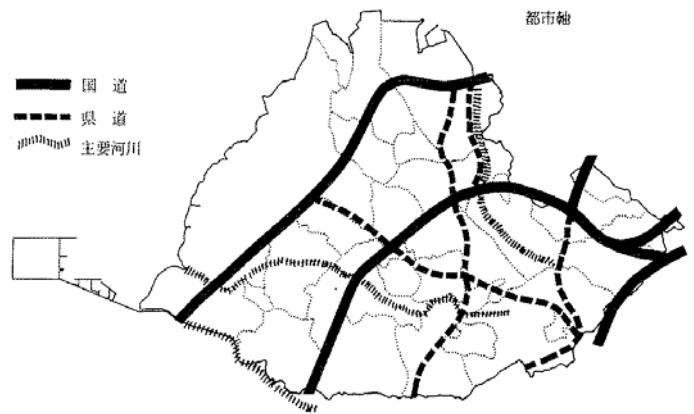


#### ④都市軸

都市軸系は、道路と河川で構成されます。

道路は、広域幹線となる国道 58 号、国道 330 号とそれを補う県道 38 号線、県道 153 号線、県道 5 号線により幹線ネットワークが形成されています。沿道はほとんど宅地化され、国道 58 号、県道 38 号線沿線は、商業・業務機能が集積し、沿道景観を特徴づけています。

河川は、市の北側を牧港川、中央を小湾川、南側を安謝川がそれぞれ北流、西流しています。短い流域にあって、田園地域、市街地を流れ、変化に富んだ河川景観となっていますが、親水性には乏しい状況です。



#### ⑤市街地

市街地系は、住宅地、商業地、工業地、港湾地域、軍用地で構成されます。

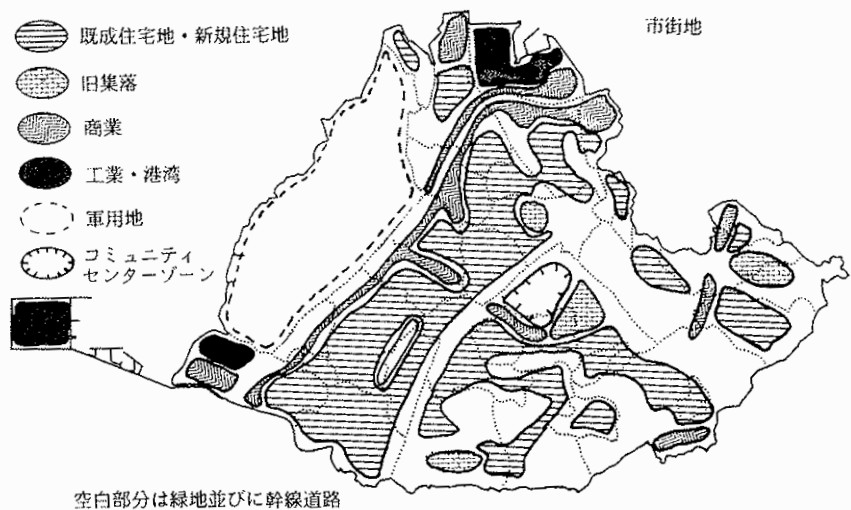
住宅地は南斜面に位置し、旧来の地割を残す集落、戦後すぐに形成された既成住宅地、区画整理等によって新たに形成された住宅地、大規模開発による住宅団地に大別されます。

商業地は、国道 58 号沿道の広域型と県道 38 号線、県道 5 号線及びパイプライン沿道の地域中心型に大別されます。

工業地は、発電所が大きな面積を占め、発電所施設はシティゲートの役割にもなり、遠方からのランドマークとなっています。

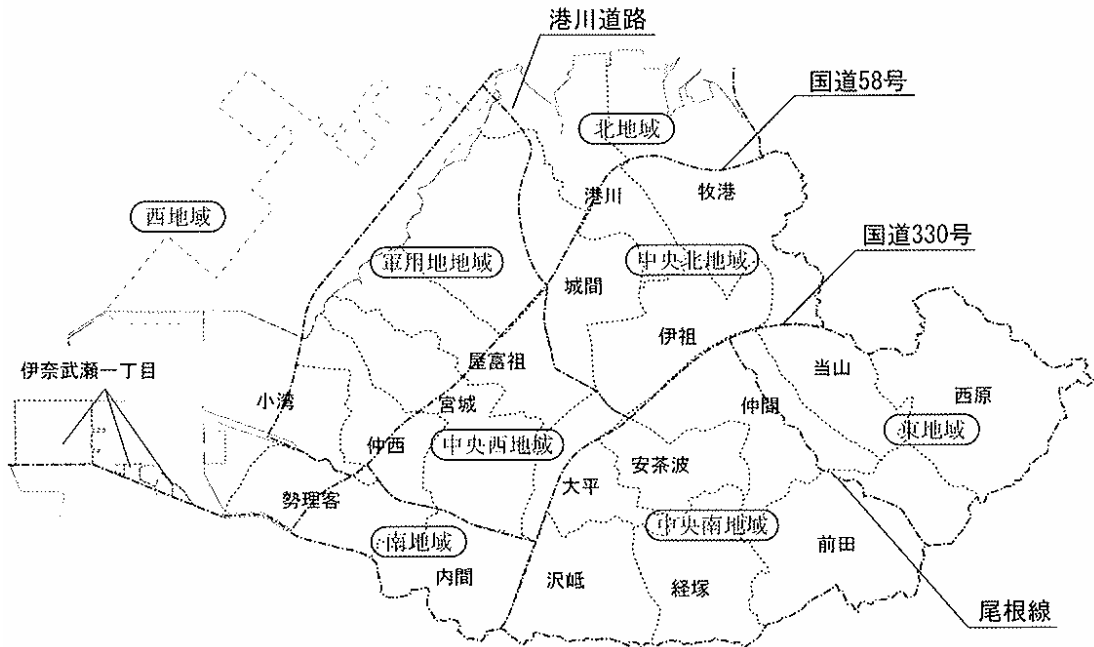
港湾地域は、水際線と一体となる景観であり、海岸部の大半を軍用地が占めている本市にとっては貴重な水辺空間となっています。

軍用地は、海岸部のかなりの面積を占め、跡地利用計画等、今後の展開が期待されると同時に景観におけるウォータフロントとしてのポテンシャルの高い地域でもあります。

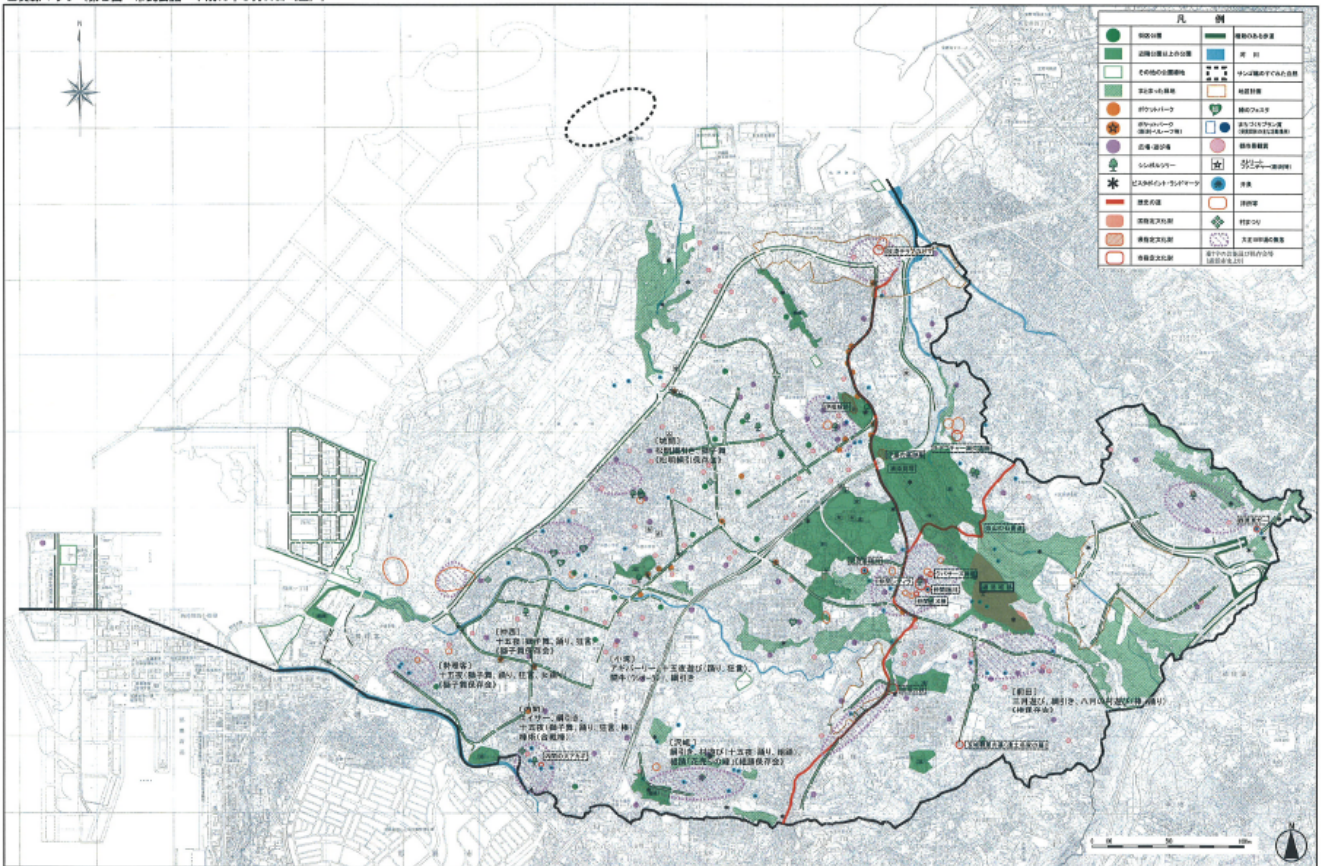


## (2) 地域資源

地域によって景観資源はそれぞれ異なります。ここでは、以下に示す8地域で区分し、それぞれの地域の資源を示します。

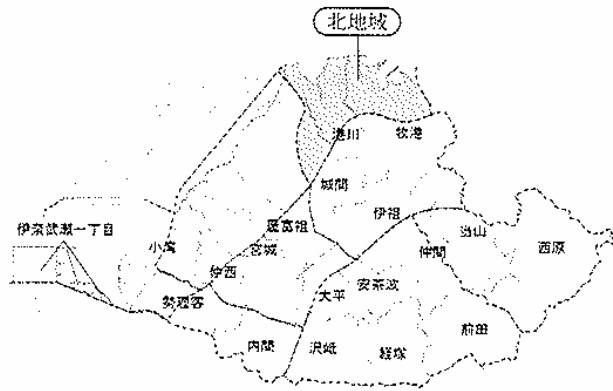


■資源マップ（第2回 市民会議 平成18年9月30日（土））





# 1. 北地域

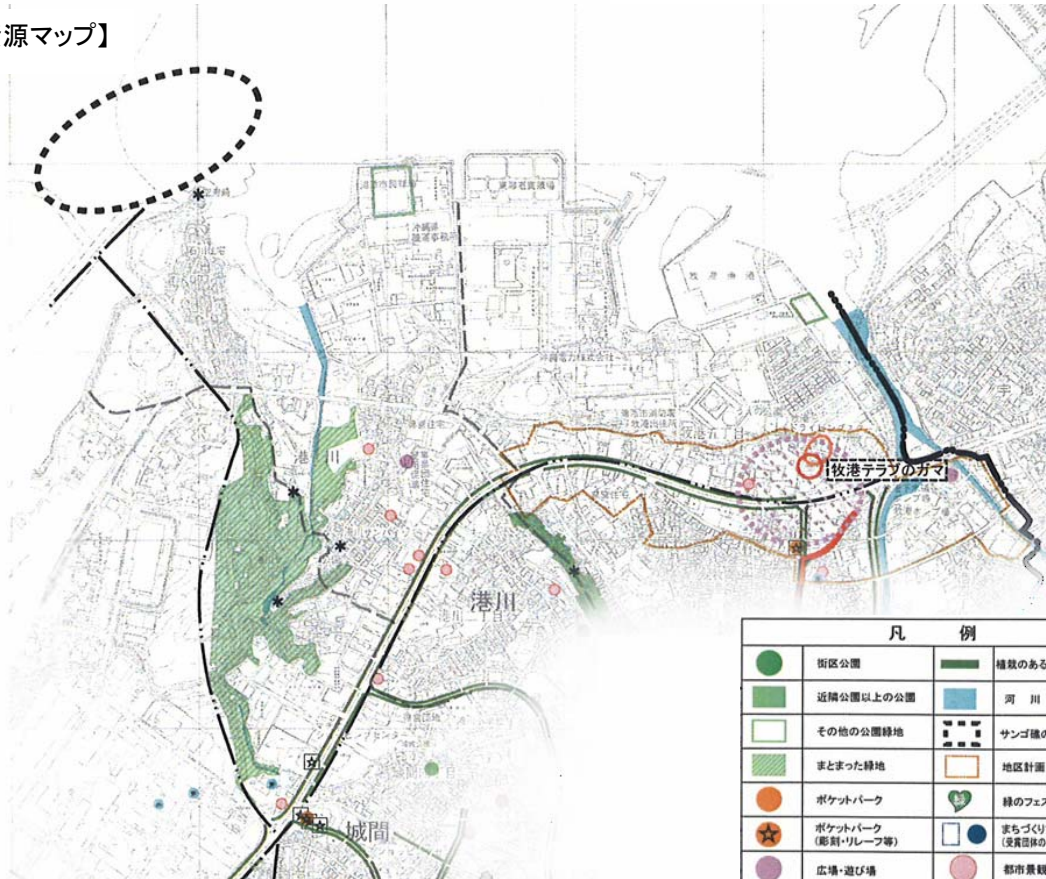


## 地域資源

水・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧港川、宇地泊川（比屋良川）、シリン川</li> <li>・ カーミージー、里浜</li> <li>・ 河川沿い・河口部の緑地</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧港テラブのガマ</li> <li>・ 各地の御嶽、樋川、拝所</li> </ul>
場・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧港自治会事務所</li> <li>・ 上野自治会館</li> </ul>
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道58号、西海岸道路</li> <li>・ 浦添市民球場、浦添市消防署 牧港出張所、沖縄総合事務局 陸運事務所、沖縄県自動車税事務所</li> <li>・ 牧港中央病院</li> </ul>

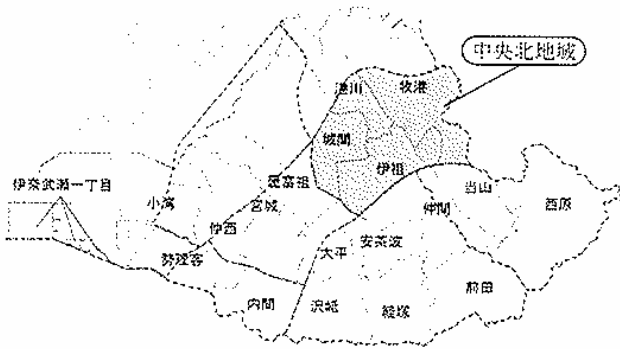
地域を構成する大字  
港川、牧港、城間

## 【資源マップ】



凡 例			
●	街区公園	—	種類のある歩道
■	近隣公園以上の公園	■	河 川
□	その他の公園緑地	■	サンゴ礁のすぐれた自然
■	まとまった緑地	■	地区計画
●	ポケットパーク	●	緑のフェスタ
★	ポケットパーク (彫刻・リレー等)	■	まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所)
●	広場・遊び場	●	都市景観賞
●	シンボルツリー	☆	ストリートフアンチャー(彫刻等)
*	ピスタポイント・ランドマーク	●	井 泉
—	歴史の道	○	拝所等
■	国指定文化財	■	村まつり
■	県指定文化財	●	大正10年頃の集落
■	市指定文化財	●	※7字の宮地及び保存会等 (前記市史より)

## 2. 中央北地域

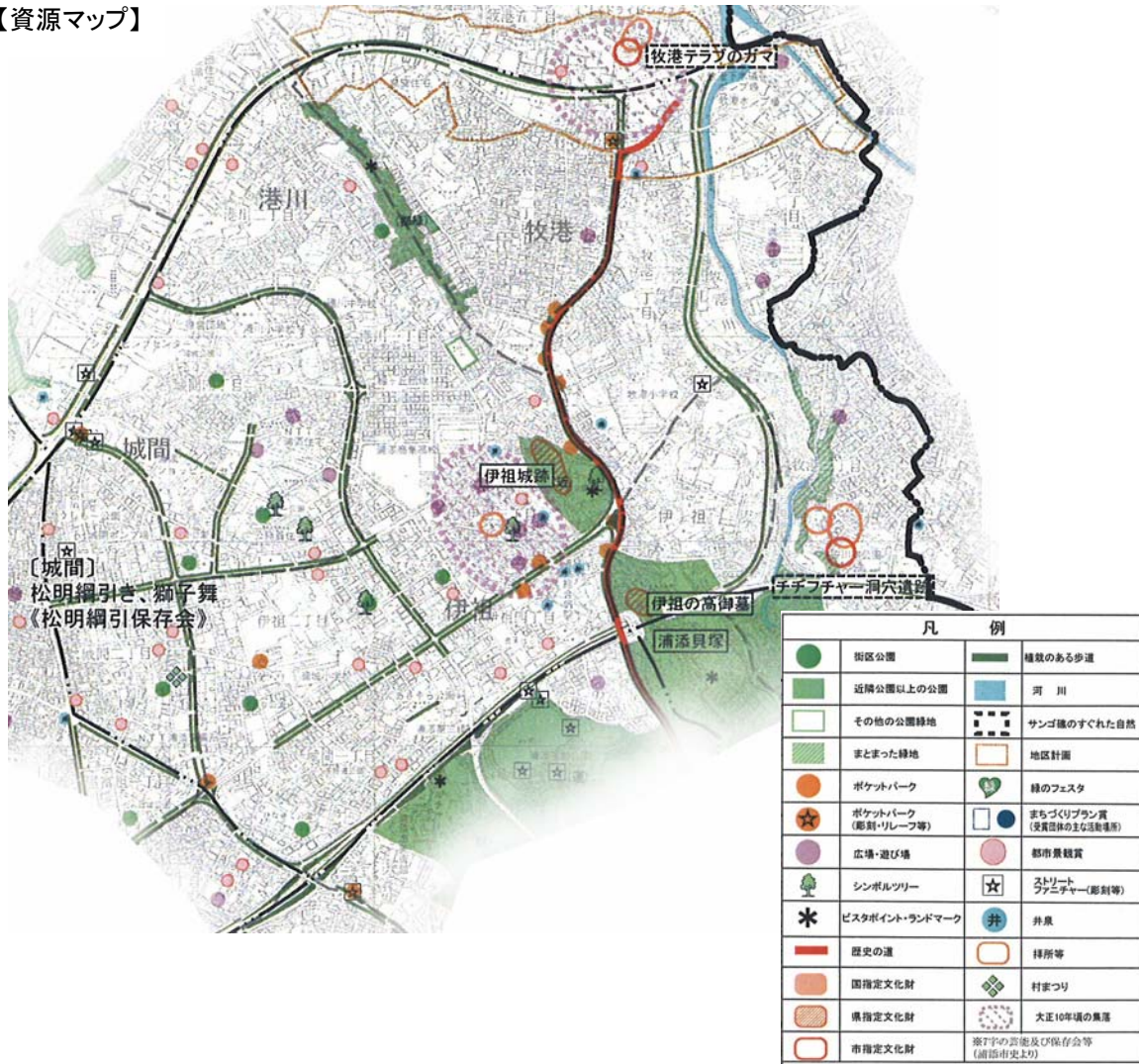


地域を構成する大字  
伊祖、牧港、港川、城間、仲間、当山

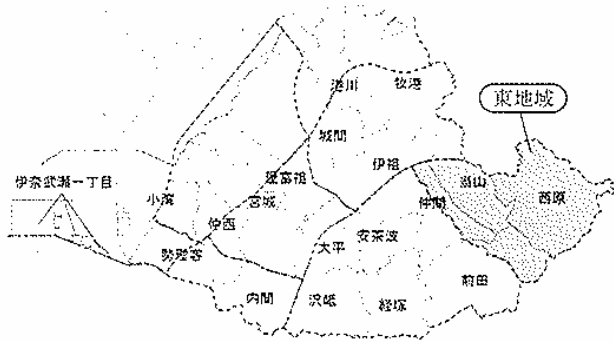
### 地域資源

水・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧港川</li> <li>・ 牧港緑地、伊祖公園、浦添大公園、まちなと公園、浦城公園、かなな公園、すみれ公園、ひなぎく公園、すずらん公園</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伊祖城跡、伊祖の高御墓、浦添貝塚、チジフチャー洞穴遺跡</li> <li>・ 各地の御嶽、樋川、拝所</li> </ul>
場・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧港公民館、浅野浦公民館、伊祖公民館、マチナトタウン自治会、安川団地自治会、浦添市街地住宅集会所</li> <li>・ 港川小学校、牧港小学校、浦城小学校、港川中学校</li> </ul>
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道58号、国道330号、パイプライン、学園通り、サンパーク通り</li> <li>・ 浦添商業高校、税関牧港出張所、牧港交番、牧港郵便局、伊祖郵便局、城間郵便局、浦添市民テニスコート</li> <li>・ 浦添総合病院、浦添海邦病院、嶺井第3病院</li> </ul>

### 【資源マップ】



### 3. 東地域

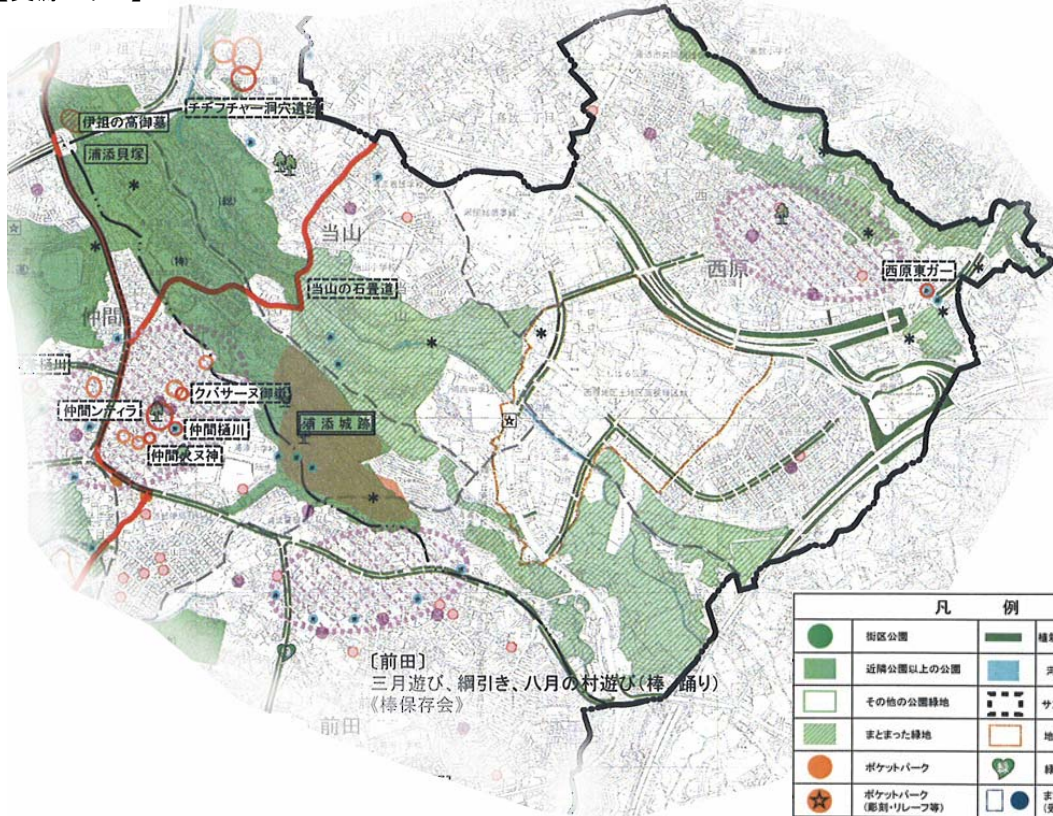


地域を構成する大字  
西原、当山、前田、仲間、伊祖

#### 地域資源

水・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧港川、宇地泊川(比屋良川)、河川沿い斜面緑地</li> <li>・ 浦添大公園、浦添墓地公園</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浦添グスク、浦添貝塚、当山の石畳道、西原東ガー</li> <li>・ 各地の御嶽、樋川、拝所</li> </ul>
場・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西原公民館、当山公民館、浦西団地集会所、広栄公民館</li> <li>・ 当山小学校、浦西中学校</li> </ul>
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道330号、県道38号線、県道241号線</li> <li>・ 浦添看護学校、鏡が丘養護学校、西原児童センター、県医療福祉センター、浦添消防本部、西原郵便局、米国総領事館</li> <li>・ 嶺井第2病院</li> </ul>

#### 【資源マップ】



〔前田〕  
三月遊び、綱引き、八月の村遊び(棒、踊り)  
《棒保存会》

凡 例			
●	街区公園	■	種類のある歩道
■	近隣公園以上の公園	■	河 川
□	その他の公園緑地	■	サンゴ礁のすぐれた自然
■	まとまった緑地	■	地区計画
●	ポケットパーク	■	緑のフェスタ
☆	ポケットパーク (彫刻・リレー等)	■	まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所)
●	広場・遊び場	●	都市景観賞
●	シンボルツリー	☆	ランドマーク(彫刻等)
*	ビスタポイント・ランドマーク	井	井泉
—	歴史の道	○	拝所等
■	国指定文化財	■	村まつり
■	県指定文化財	■	大正10年頃の集落
■	市指定文化財	■	猿7字の芸能及び保存会等 (浦添市史より)

#### 4. 中央南地域



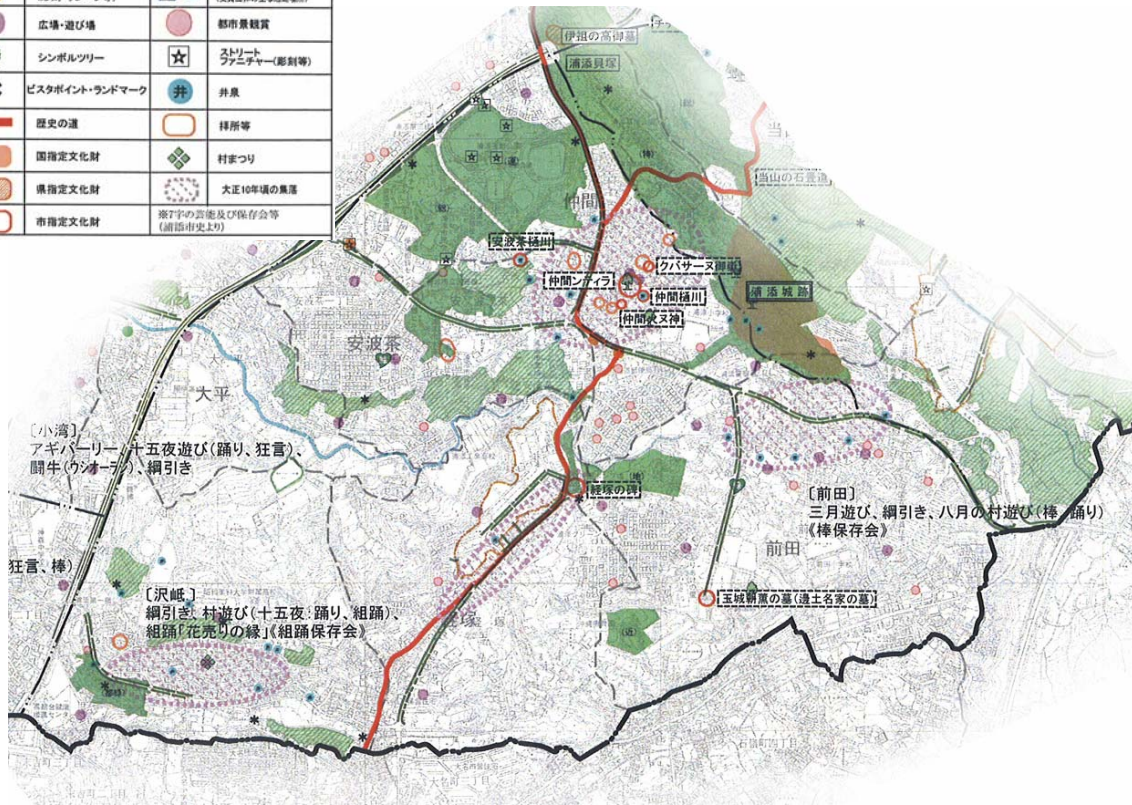
地域を構成する大字  
安波茶、仲間、前田、経塚、大平、沢岷  
伊祖

#### 地域資源

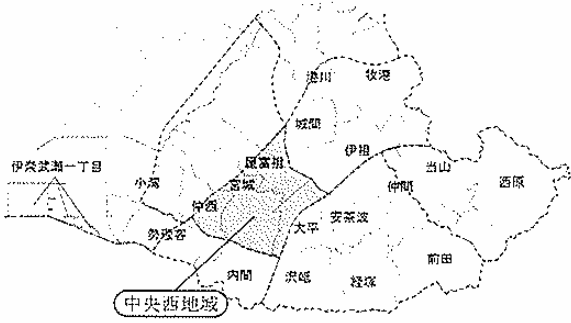
水・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>小湾川、沢岷川</li> <li>浦添運動公園、浦添カルチャーパーク、クニンドーの森公園</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>浦添グスク、浦添貝塚、クバサーヌ御嶽、仲間樋川、仲間ンティラ、仲間火ヌ神、安波茶樋川、経塚の碑、玉城朝薫の墓</li> <li>各地の御嶽、樋川、拝所</li> </ul>
場・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>浦添市中央公民館、仲間自治会館、安波茶自治会館、前田自治会館、経塚公民館、沢岷公民館、ニュータウン自治会公民館、茶山集会所、前田住宅集会所、前田市営住宅集会所、安波茶市営住宅集会所、浦添グリーンハイツ集会所</li> <li>浦添小学校、前田小学校、沢岷小学校、浦添中学校</li> <li>前田三月遊び、綱引き、八月村遊び(棒、踊り)、沢岷綱引き、村遊び(十五夜、踊り、組踊「花売りの縁」)</li> </ul>
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道330号、県道38号線、県道153号線、沢岷石嶺線</li> <li>浦添市役所・水道局、市消防本部、市民会館、市立図書館、浦添美術館、ハーモニーセンター、市民体育館・陸上競技場、多目的屋外・屋内運動場、ゲートボール場、特別養護老人ホームありあけの里、市老人福祉センター、市保健相談センター、沖縄療育園、厚生年金うらそえ荘、沖縄国際センター、浦添警察署、仲間交番、浦添郵便局、前田郵便局、沢岷郵便局</li> <li>昭和薬科大学付属中学校、鏡が丘養護学校浦添分校、浦添職業能力開発学校、嶺井第一病院、平安病院、ジスタス浦添</li> </ul>

#### 【資源マップ】

凡 例			
	街区公園		種数のある歩道
	近隣公園以上の公園		河川
	その他の公園緑地		サンゴ礁のすぐれた自然
	まとまった緑地		地区計画
	ポケットパーク		緑のフェスタ
	ポケットパーク(彫刻・リレー等)		まちづくりプラン賞(受賞団体の主な活動場所)
	広場・遊び場		都市景観賞
	シンボルツリー		ストリート・アーティスト(彫刻等)
	ピスタポイント・ランドマーク		井泉
	歴史の道		拝所等
	国指定文化財		村まつり
	県指定文化財		大正10年頃の集落
	市指定文化財		※7字の芸術及び保存会等(前話申上り)



## 5. 中央西地域



地域を構成する大字  
屋富祖、城間、宮城、仲西、大平、沢岨、内間、勢理客

### 地域資源

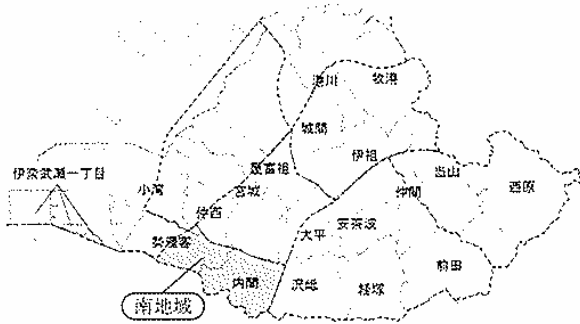
水・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>小湾川</li> <li>屋富祖大ガジュマル、宮城公園、せせらぎ公園、大平小公園、チョンダ公園</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地の御嶽、樋川、拝所</li> </ul>
場・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲西公民館、宮城公民館、城間公民館、大平公民館、屋富祖公民館、小湾自治会館、神森団地集会所</li> <li>仲西小学校、宮城小学校、仲西中学校</li> <li>城間松明綱引き、獅子舞、仲西十五夜(獅子舞、踊り、狂言)、小湾アギバーリー、十五夜遊び(踊り、狂言)、闘牛、綱引き</li> </ul>
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道58号、国道330号、県道38号線(屋富祖大通り)、沢岨石嶺線、パイプライン、大平養護学校、沖縄高等理容学院、琉球調理師専門学校、沖縄心身障害者職業センター、てだこ学園大学院、宮城ヶ原児童センター、沖縄コロニーセンター、サンアビリティ浦添、北那覇税務署、城間交番、屋富祖郵便局、大平郵便局、同仁病院</li> </ul>

### 【資源マップ】

凡 例			
	街区公園		橋がある歩道
	近隣公園以上の公園		河 川
	その他の公園緑地		サンゴ礁のすぐれた自然
	まとまった緑地		地区計画
	ポケットパーク		緑のフェスタ
	ポケットパーク(彫刻・リレー等)		まちづくりプラン策(実業団体の主な活動場所)
	広場・遊び場		都市景観賞
	シンボルツリー		ストリートデザイナー(彫刻等)
	ビスタポイント・ランドマーク		井泉
	歴史の道		拝所等
	国指定文化財		村まつり
	県指定文化財		大正10年頃の集落
	市指定文化財		築7字の御能及び保存会等(前編市史より)



## 6. 南地域

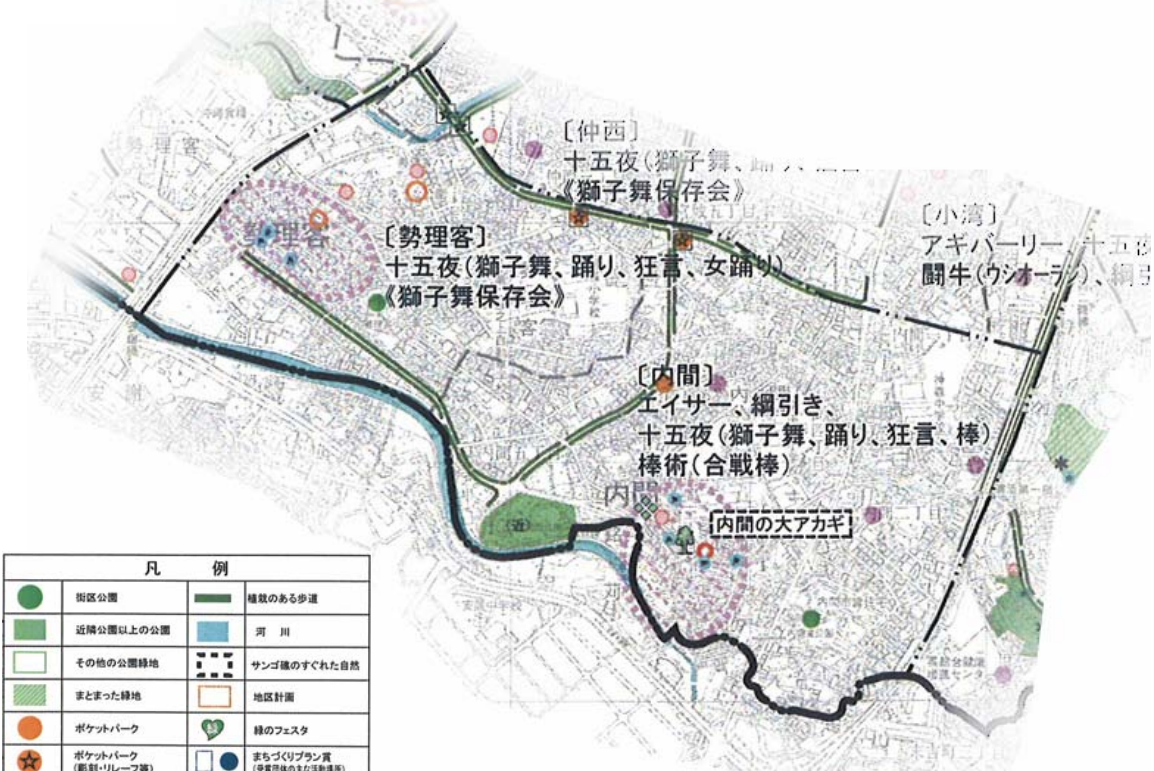


地域を構成する大字  
内間、勢理客、沢岷、宮城、仲西、小宮

### 地域資源

水・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>小湾川、安謝川</li> <li>内間の大アカギ、内間西公園、内間東公園、勢理客小公園</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地の御嶽、樋川、拝所</li> </ul>
場・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>内間公民館、勢理客公民館</li> <li>神森小学校、内間小学校、神森中学校</li> <li>内間エイサー、綱引き、獅子舞、十五夜(獅子舞、踊り、狂言、棒)、勢理客十五夜遊び(獅子舞、踊り、狂言、女踊り)</li> </ul>
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道58号、国道330号、沢岷石嶺線、パイプライン</li> <li>浦添高校、税務大学校沖繩研修支所、内間児童センター、地域福祉センター、浦添社会保険事務所、内間交番、内間郵便局、勢理客郵便局、浦添市消防内間出張所</li> </ul>

### 【資源マップ】



凡 例			
	街区公園		植栽のある歩道
	近隣公園以上の公園		河川
	その他の公園緑地		サンゴ礁のすぐれた自然
	まとまった緑地		地区計画
	ポケットパーク		緑のフェスタ
	ポケットパーク(彫刻・リレー等)		まちづくりプラン賞(受賞団体の主な活動場所)
	広場・遊び場		都市景観賞
	シンボルツリー		ストリートラウンジ(彫刻等)
	ビスタポイント・ランドマーク		井泉
	歴史の道		拝所等
	国指定文化財		村まつり
	県指定文化財		大正10年頃の集落
	市指定文化財		※7字の芸術及び保存会等(前掲市史より)

## 7. 軍用地地域



### 地域資源

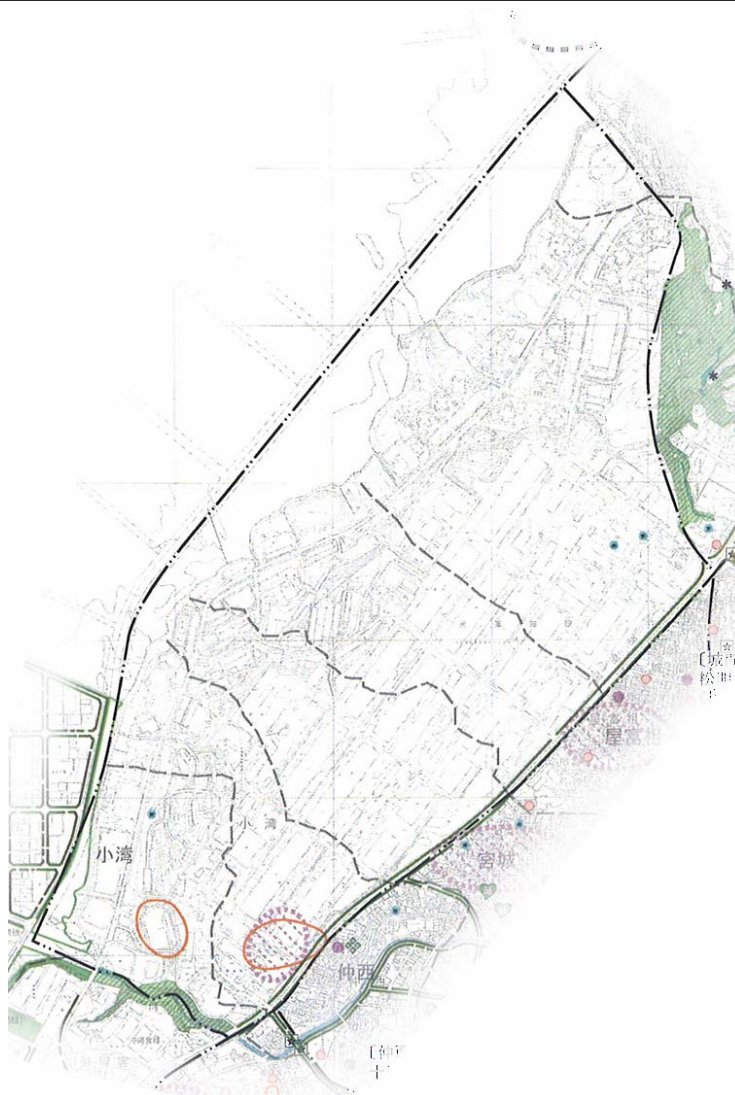
水・緑	・ シリン川、小湾川及び河口部の緑地 ・ 自然海岸
歴史・文化	・ 旧集落跡 ・
場・コミュニティ	—
主な施設	・ キャンプキンザー(牧港サービスエリア) ・

地域を構成する大字

港川、城間、屋富祖、宮城、仲西、小湾

### 【資源マップ】

凡 例			
	街区公園		種数のある歩道
	近隣公園以上の公園		河 川
	その他の公園緑地		サンゴ礁のすぐれた自然
	まとまった緑地		地区計画
	ポケットパーク		緑のフェスタ
	ポケットパーク (彫刻・リレー等)		まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所)
	広場・遊び場		都市農耕賞
	シンボルツリー		ストリート クアリティ賞(彫刻等)
	ピスタポイント・ランドマーク		井泉
	歴史の道		拝所等
	国指定文化財		村まつり
	県指定文化財		大正10年頃の集落
	市指定文化財		猿子島の霊地及び保存会等 (前部市史より)



## 8. 西地域



### 地域資源

水・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湾川及び河口部の緑地</li> <li>・ 西海岸ウォーターフロント</li> </ul>
歴史・文化	—
場・コミュニティ	—
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇工業高校、国立沖縄劇場、中央卸売市場、波浪海岸観測所、沖縄総合事務局那覇港工事事務所浦添出張所、市クリーンセンター、リサイクルプラザドリーム21、学校給食共同調理場、伊奈武瀬球場</li> </ul>

地域を構成する大字  
勢理客、西洲

### 【資源マップ】

凡 例			
	街区公園		種敷のある歩道
	近隣公園以上の公園		河 川
	その他の公園緑地		サンゴ礁のすぐれた自然
	まとまった緑地		地区計画
	ポケットパーク		緑のフェスタ
	ポケットパーク (彫刻・リレーフ等)		まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所)
	広場・遊び場		都市景観賞
	シンボルツリー		ストリート フアンニチャー(彫刻等)
	ピスタポイント・ランドマーク		井泉
	歴史の道		禊所等
	国指定文化財		村まつり
	県指定文化財		大正10年頃の集落
	市指定文化財		郷字の雲雀及び保存会等 (前述市史より)





#### 4. 浦添市の景観特性と課題の整理

空間類型	特 性	課 題
1. 緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>浦添断層崖、シリン川沿い及び市南部の丘陵地上の緑地は、都市域において極めて少ない自然緑地で構成され、骨格的なグリーンベルトとなっている。</li> <li>市南東部、小湾川中流域(大平・沢岬)の生産緑地は都市域での貴重な田園景観となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然緑地や生産緑地の保全、河岸緑地の育成等により冠状緑地帯の形成を図っていく必要がある。</li> <li>近年、都市化の進行により、緑地部分にも開発の手が伸び、年々緑地が減少していく傾向にあり、今後その保全・育成が課題となる。とくに小 起伏の発達している本市には斜面が多く、その緑化等による修景を図っていく必要がある。</li> <li>河川・臨海部については、今後の計画の中で緑地部分の確保を図っていく必要がある。</li> </ul>
2. 臨海リゾート	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市総合計画の長期ビジョンの1つであるマントピアに組み込まれる地域であり、今後都市近郊型のリゾートとして整備が期待されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本県の特性である海岸景観に配慮し、市民や来訪者に親しまれる海浜空間を創出していく必要がある。</li> </ul>
3. 歴史・文化・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊祖城跡から浦添城跡にかけての一带は、先史時代から古琉球にいたるまでの貴重な遺跡が数多く分布する地域で、なかでも伊祖城跡は英祖王の出生地、浦添城跡は舜天-英祖-察度の三王統の居城であり、それぞれ琉球王府発祥のゆかりの地として特筆されるものである。</li> <li>この他、歴史的資源としては、為朝伝説由来の地である牧港テラブのガマや王府時代の官道にあたる宿次のみち(石橋や石畳道が一部で残存)、かつての集落と密接なかかわりのあった湧泉等が市内各所に点在している。</li> <li>市役所から市民会館、浦添運動公園にかけての一带は、行政・文化・ふれあい空間の拠点地形成が進められており、シビックセンターとして一層充実していくものと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、伊祖城跡から浦添城跡にかけては、公園整備が進められており、今後その歴史性に配慮しながら整備していく必要がある。</li> <li>市内に点在する歴史的資源は、今後市街地形成の進行する中で大切に保全し、散策路の整備によるネットワーク化等有効的に活用していく必要がある。</li> <li>市民や県民のふれあいの場となるコミュニティセンターゾーンは、周辺市街地との連絡に配慮し、個性豊かな空間として整備していく必要がある。</li> </ul>
4. 道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の骨格的な道路ネットワークは、主要幹線道路となる国道 58 号、330 号と幹線道路となる県道5号線、38号線、153号線で構成される。この他、西海岸側の西海岸道路や都市内を結ぶ幹線的な都市計画街路が計画され、都市内環状線が構築されつつある。</li> <li>これらの道路軸には、それぞれの沿道で特色ある街路景観がみられ、国道 58 号沿道では、商業・業務地と基地景観、国道 330 号沿道では、地形を分断する形で建設されたということもあって、地形的に変化に富んだ沿道景観となっている。また、県道レベルでは、38 号線、153 号線とも商業地から住宅地への移り変わる景観とともに、国道 330 号より東側では海への眺望も開けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幹線道路は、外来者に対して最初に浦添らしさを印象づける大切な地点となる。したがって、市の境界付近では、シティゲートとしてのイメージアップが必要であり、また、沿道では特色ある沿道景観の創出が必要となろう。</li> <li>わかりやすい都市、親しみのもてる道は、市民生活においても、来訪者にとっても重要であり、そうした視点より道づくりを進める必要がある。</li> <li>生活道路は、急速に市街化が進行したこともあって、未整備地域もかなり残している。</li> </ul>
5. 河川・水際線	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市には、牧港川、シリン川、小湾川、安謝川の4河川がある。現在市街化が進む中で漸次河川改修が行われているが、一部では親水性や水辺空間に配慮した整備も行われている。</li> <li>7~8km に渡る海岸線は、勢理客、牧港地先が港湾、漁港区域として整備され、空寿崎周辺では自然海岸が残り、貴重な親水空間となっている。しかし、大半は軍用地の立地により閉ざされている。今後、海岸域での良好な景観形成と親水性の確保が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市における水辺空間は、市民生活にうるおいとやすらぎを与えるとともに、街並みを印象づける要素として大変貴重であり、河川・水際線はその一翼を担う資源として親水性や水辺景観に充分配慮した整備を行う必要がある。また、本市の冠状緑地帯の一部に位置づけられており、沿岸緑化も積極的に推進していく必要がある。</li> <li>河川は、道路とともに都市内において数少ない通景を確保する資源であり、そうした面に配慮した景観形成を図っていく必要がある。</li> </ul>

6. 商業業務地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道 58 号沿道は、那覇市の都市化のオーバーフローを受け、勢理客、牧港付近で本社機能を有する業務地が立地し、基地に対面する地域では飲食店等商業サービス施設の立地がみられる。</li> <li>・屋富祖商店街は、戦後基地の立地とともに形成され、長年本市の中心商店街の役割を果たしてきた。しかし、近年街路狭小に加え、交通量の増加は買物環境を悪化させ、一方で他地域での大型店舗が進出し、商業機能は低下の傾向にある。</li> <li>・パイプラインは、現在大部分で区画整理事業が進められ、近隣商業地域として地域住民の買物空間の整備が漸次進行し、北側の地域では整然とした街並が形成されつつある。</li> <li>・西原一帯では、隣接する宜野湾市と連担し、市内外の商業サービスにおいて重要な役割を担っている。</li> <li>・安波茶付近は、市役所をはじめ消防署、中央公民館等市の行政・文化施設が集積し、行政センターとなっている。北西斜面地に立地していることもあって海への眺望が開けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道 58 号沿道では、商業系、工業系が混在して立地しており、土地利用の適正化を図っていく中で、景観上調和のとれたものとしていく必要がある。</li> <li>・屋富祖商店街は、その再活性化を図るため、ゆとりのある買物環境を創出していく必要がある。</li> <li>・パイプラインは、今後地域の新しい商業空間として、地域特性を活かした個性ある沿道景観を創出していく必要がある。</li> <li>・西原一帯は、境界線領域において市内外の新しい商業空間として整備していく必要がある。</li> <li>・市役所を中心とする行政センター一帯の空間は、今後市民にとって親しみのある空間とするために周辺一帯の整備を推進していく必要がある。</li> </ul>
7. 既存住宅地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道 330 号を境に大きく2つのタイプに分類される。北西側は、基地化・都市化の影響を最初に受け、都市基盤整備が行われる前に*スプロール的に宅地化が進行し、道路網等が無秩序で密集住宅地となっている。南東側は、40 年代以降の住宅団地の開発によって形成された住宅地である。</li> <li>・一部地域では、建築協定等による住民自らの手によるまちづくりも行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・密集住宅地、道路網の未整備等これらが“わかりにくい浦添”の所以であり、密集地域でのオープンスペースの確保、安全で快適な道づくり等により良好な居住空間を創出していく必要がある。</li> <li>・面的整備を推進するにあたっては、緑化協定や建築協定等協定締結を積極的に指導・助言することにより、住民参加の景観形成に資する必要がある。</li> </ul>
8. 新規住宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城、城間、伊祖、西原の区画整理完了及び進行中の地域と茶安波、仲間、前田、経塚、沢岬の予定地域の2つに大きく分類される。前者の地域では、オープンスペースの確保や街路樹、各家々での緑化等により良好な居住環境が整備されつつある。後者の地域では、仲間のような昔ながらのたたずまいを残した集落があったり、自然緑地もかなり残っており、こうした資源を活かした居住環境の整備が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この地域は、新しいまちが形成されていくあるいはこれから形成されるところであり、個々の地域特性を活かしながら景観形成を図っていく必要がある。</li> </ul>
9. 旧集落	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南斜面に位置し、背後に緑地(クサティ森)を擁する集落の立地形態は、沖縄における伝統的な集落の典型である。本市にあっても伊祖、沢岬、西原にはこうした沖縄の原風景とも言える昔ながらのたたずまいをとどめる集落が現在でも残っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古い集落は、生活環境の向上を図りつつ、伝統的な集落景観を保全していく必要がある。</li> <li>・集落背後の緑地は、古い集落景観の重要な構成要素の1つであり、保全・育成を図っていく必要がある。</li> </ul>
10. 工業・流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牧港に立地する電力会社は、沿岸部分のかなりの面積を占めるとともに、施設は同地域のランドマーク並びに市北部のシティゲートのものとなっている。</li> <li>・また、那覇港浦添ふ頭地域は、一大流通拠点の整備がなされている。</li> <li>・牧港の漁港区域と那覇港浦添ふ頭域があり、大規模な埋立計画も漸次進められ、一大港湾地域の形成が目指されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力会社の諸施設は見た目にも望ましい景観とは言えず、緑化等による修景を図っていく必要がある。</li> <li>・今後整備される流通拠点については、景観に配慮した施設整備を図っていく必要がある。</li> <li>・市民にとっては、貴重な水辺空間であるにもかかわらず、従来の港湾にみられる閉鎖的で近寄り難い空間となっており、今後、オープンスペースの確保、親水空間の創出、緑化の推進等により市民にとって親しみやすく、気軽に入出入り出来る港湾空間を創出していく必要がある。</li> </ul>
11. 軍用地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の海岸部の大半を占める軍用地は、これまで金網越しに軍用施設と景観上好ましくない状況にあったが、国道 58 号沿道で緑化により修景が図られている。また、海岸部では高層の住宅団地が建設されており、新たな景観が形成されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軍用地については、今後本市の良好な景観形成に資するよう協働で跡地利用計画を進めていく必要がある。</li> </ul>